

はじめに

公益財団法人伊藤忠記念財団は、青少年の健全育成に寄与することを目的に、伊藤忠商事株式会社によって1974年に設立されました。開設当初より、青少年が読書と親しむことの大切さに着目し、「子ども文庫活動」への助成事業などをおこなってまいりました。

開設30年を超え、事業の再構築を目指し調査をおこなったところ、障害があるために通常の紙の本では、読書が困難な子どもたちが大勢いることがわかりました。そこで、児童書を電子化（マルチメディアDAISY規格）し、寄贈する事業を新たに開始しました。その第1回目は、2011年3月に31作品を電子化し、全国の特別支援学校と大規模都市の公共図書館、約1200か所に寄贈しました。

同年8月に実施したアンケート調査の回答から、

- ・学校のパソコンは、フリーソフトをインストールできないので作品を見ることができない
- ・コピーガードのため、パソコン以外の端末で読書ができないのは不便である
- ・難しい作品ばかりで、在校生の実態に合わない。絵本などがほしい
- ・各自の欲求を満たせるよう、幅広い分野の作品がほしい。特に電車の作品

というご意見をいただき、第2回目の（2012年5月 38作品）には改善いたしました。

ほかにも、

- ・マルチメディアDAISY図書は、作品数が少ないので教職員へ浸透していない
- ・活用事例を知りたい。それがあれば利用する教職員が増加すると考える

というご意見もいただきました。これに対応するために第3回目（2013年5月 58作品）は、有志の特別支援学校に利用研究をお願いし、活用例の小冊子(本誌)を発行することを実施しました。わずかな期間で適確に研究を進めていただいた協力校の先生方に心から感謝申し上げます。

障害児教育の経験をもたない私たちは、専門家である皆様からご指導をいただきながら、この事業を本当に障害のある子どもたちの成長に貢献できる文化に育てていくことを目指しています。

子どもたちは、やりがいのある課題を達成したとき、最高の笑顔を見せてくれます。

一冊の本を読み通すことは、子どもたちが言葉や知識を身につけるとともに、達成感＝小さな成功体験となるはずですが、私たちはささやかですが、これまで障害のために読書をあきらめていた子どもたち自身が、小さな成功体験を積み重ねることで自信を得、より豊かな人生を歩いていく一助となるように努めてまいります。

2013年5月

公益財団法人伊藤忠記念財団